

さわらび

心をこめて閉校式典 参列者340名



十日町市立東下組小学校
平成20年11月21日
学校だより 第8号

子どもの作文(抜粋)には当日の心の動きが表されています。

そしてとうとう僕たちの出番がきた。緊張したけど大きな声でせりふを言うことができてよかった。途中で会場の人でも泣き始めたので(感動してくれたんだな)と思った。悲しいときは悲しく、楽しいときは楽しく言えてよかった。気持ちを言葉にのせて言えた。僕も泣きそうになった。練習の倍はうまくできた。大きな声も出せた。最後の校歌では、ほとんどの人が泣きそうになって歌っていた。

みんなの心が心にしみた。僕は校歌を心をこめて歌うことができてよかった。この日までの思い出がぱっとよみがえって泣きそうになった。でもなんとかこらえた。これから3月まで楽しくすごそうと思う。 5年

そして、10時から式典が始まった。来賓の人の話を聞いていると、次々にいろいろな思い出がうかんできて、泣きそうになった。泣きそうになったから花や校歌を見ていた。そして、僕たちの発表だ。ステージに行く前に深呼吸をした。ステージに上がった。目の前には、人がたくさんいてぞくぞくとした。発表している間ふるえが止まらなかった。発表が進み、「学校坂道」を歌っている時、泣きそうになった。発表が終わったら、拍手が長かった。感動した。(中略)式が終わって帰ろうとしたら30才代くらいの人が「君、R君。」と聞いてきた。「はい。」と答えると「やっぱりね。僕もRって言うんだよ。」と言った。すごく驚いた。 5年

「そろそろ行くよ。」と声がかかった時、私は(ああもうすぐ始まる。ドキドキするなあ。)と思っていた。深呼吸してもしても、まだドキドキしていた。私がそんなに緊張するわけは、多くの人たちが来るからだ。(せりふを忘れたり間違えたりしたらどうしよう。)と言ったり思ったりした。体育館に着いた。私は音楽室にいたときよりも心臓がバクバクバクバクと速くなって痛かった。自分の席に座った。そして始まった。(中略)司会者が「次は東下組小学校の思い出です。お願いします。」と言った。ドキドキした。(練習の時みたいに間違えないかな?)と思った。でも、間違えないでできた。無事に終わってほっとした。閉校式典がうまく行ってよかった。音楽室に帰る時に地域の人たちが「よかったよ。上手にできたね。」と言ってくれてうれしかった。 6年

参列者からのたより紹介

盛大な式典にお招きいただきありがとうございました。ご尽力された皆様々に敬意を表します。人口を考えても、これだけ地域人が集まることは他には見られないことだと思います。

それだけに閉校が惜しまれます。

しかし、地域の活動、会での話し合い、子どもたちの活力ある動きなどを見ると、さすが東下組地域と、その前向きな心を感じ、感激いたしました。今後の地域の発展を祈念いたします。

第19代校長(昭和48.4~51.3)

松沢 欣一様より

東下組小学校10人の子どもたちへ

11月16日。みなさんの心をこめたことばの一つ一つが、たいいくかんをつきぬけるようなはっきりした声が、今も私の体の中にのこっています。すばらしい呼びかけでした。

これから3月の終わりまで10人の皆さんと先生が、いままで以上にしっかり手をつないでいてください。それが大きな力となります。

第27代校長(平成7.4~9.3)

俵山 迪夫様より



熱い思いを感じた一日

式典当日は、朝から卒業生・地区民がお出でになりました。心配された受付での混雑や会場の座席(きまりよく前の方から順に座ってもらう)の混乱もなく、スムーズに開式の時刻を迎えることができました。学校の歴史と伝統にふさわしい閉校式を子どもたちと参列した大勢の皆さんとで創り上げました。式が終わった後、3階の展示室は満員となり、昔を懐かしむひとときとなりました。

午後の思い出を語る会は参加者224名。皆さんが時間を惜しむように多くの方と挨拶をかわし再会を喜び合っていました。なにしろ大人数ですから、話したい人の所をまわりきれなかったと思った人もいらっしゃるでしょう。こんなに東下組小学校への思いが強い人たちが集まっていることに、皆さんが感動していました。「東下組は最高!」です。

「東下組小学校の歴史に学び地域の明日を拓く会」閉校記念事業実行委員会の活躍

全員が気持ちを一つにして、着実に役割を果たし、協力して大きな事業をやり遂げる姿勢に参会者は、東下組地域の活力を感じたことと思います。

12月主な行事予定

4日(木) 祖父母学級しめ縄作り・学校評議員会

9日(火) 下条小学校との交流

涙の校歌斉唱
でした



作成した図
面に基
づいて
椅子が
並べら
れまし
た